

分担研究報告書

分担研究課題名：保健所におけるキャリア相談の現状と問題点

研究分担者氏名：末岡榮三朗

佐賀大学医学部臨床検査医学講座

教授

**研究要旨**

妊婦検診において HTLV-1 検査が必須項目となり、キャリア妊婦に対する保健指導や相談体制の構築が必要とされた。当初、妊婦を含めたキャリアの一次相談窓口としての保健所が想定されたが、全国的に統一した体制を確立するためには、解決すべき問題点が少なくない。本分担研究では、保健所をキャリア相談の窓口と設定した際の問題点を明らかにし、全国に 80～100 万人いると想定される HTLV-1 感染者が、スムーズに相談できる体制を構築することを 1 次目標とした。前研究班の調査により (1) 検査受付後の医療機関との連携も各保健所の判断に任されており、母子感染対策協議会の活動も反映されていない。(2) 相談窓口における、HTLV-1 ウイルスの認知度の差や、相談体制の地域差など、現状にあった相談体制の構築が必要である、ことなどの課題が明らかになった。その状況を基に、佐賀県において 2012 年から開始した HTLV-1 専門外来と保健所と連携をモデルとして、キャリア相談窓口の整備体勢を検討してきた。3 年間の活動において、カウンセリングや授乳相談を重要性、キャリア妊婦用 DVD の作成や、本研究班が作成した説明用のツールを有効活用することによって、保健所の窓口業務負担を軽減し、かつ地域事情に即した HTLV-1 相談窓口業務を構築することが必要である。今回の活動から保健所の相談窓口としての妥当性と、受け入れ先としての地域の期間施設の整備の必要性が明らかになった。

**A. 研究目的**

全国で約 1,400 カ所の相談窓口のうち 60% 以上の施設において相談実績がないことが報告されている。本研究では、相談窓口の現状を明らかにし、全国における有効性のあるカウンセリング体制を提案することを目的とする。

**B. 研究方法**

保健所を一次相談窓口と想定した時の問題点を明らかにするとともに、地域の実情に応じた相談体制を提案し、実現に向けて体制を整える。

**(倫理面への配慮)**

今回の調査研究においては個人情報特定できる内容を含んでいない。従って倫理面での管理に関する問題は発生しないが、今後

特定事例における調査の必要性が発生した場合については、院内倫理委員会に申請を行い、対象者に対するインフォームドコンセントの取得を条件に調査を行う。

**C. 研究結果**

(1) 保健師を中心とする現場の担当者の意識として、相談実績が少ないこと、妊婦の授乳対策、HTLV-1 キャリアの健康相談、社会的側面からの相談など対応内容が多岐にわたることからの不安が大きいことが明らかになった。

(2) 母子感染対策協議会の位置づけ:組織としては存在していても活動実績がない自治体が少なくない。保健所とキャリア受診医療機関、産科、小児科との連携の強化が必要であり、全国規模で考えたときに重要な体制であると考えられる。

(3) 受け入れ窓口が保健所であれ、産科施設であれ、キャリアが受診を希望される際の医療機関との連携先を整備することが急務である。

他県との交流:保健所連携を検討するうえで、キャリアの分布に応じて、九州各県のようなウイルス保有率の高い地域、大都市圏のように保有率は高くないが、実数の多い地域、保有率、実数ともに稀な地域にそれぞれあった受け入れ態勢を構築する必要があると考えられた。そのために、全国保健所長会等との連携についても検討を進めている。

#### D. 考察

キャリア相談窓口を全国的に保健所統一することについては問題が多いと考えられた。HTLV-1専門外来の実績から、キャリア対応には医学的な問題のみならず、社会医学的な側面など多彩な知識と経験を必要とする。また、キャリアの側の問題としてもHTLV-1に関する認知度の低さ、HIV感染との混同、相談窓口としての保健所を意識していないなどが挙げられる。キャリアの比較的多い佐賀県においても、陽性者のカウンセリング実績がなく、特に妊婦に対する対応に関しては、キャリアである妊婦に対するカウンセリング、母乳育児に関する相談対応については、保健所のみでの対応は困難であり、医療機関との連携が必須であると考え、様々な取り組みを行ってきた。しかしながら連携のための実行組織として位置づけられる、母子感染対策協議会が活動していないこと、2次相談窓口としての医療機関側の対応も、地域や自治体ごとに異なるなど、現在のままではスムーズな連携は困難と考えられる。

今後キャリア相談窓口の整備のためには、少なくとも母子感染対策協議会の実働状態の把握と全国の協議会の情報共有体制の整備、保健所を1次受け入れ窓口としても、その後の受け入れ医療機関の整備(期間施設の設置など)、キャリア相談内容に応じた機能的な連携体制の構築が必須だと考えられる。

#### E. 結論

HTLV-1感染対策において、妊婦を含めたキャリアの一次相談窓口としての保健所の存在意義は大きいですが、全国的に統一した体制を確立するためには、解決すべき問題点が佐賀県の調査からいくつか明らかになった。キャリア相談対応DVDの作成や各種パンフレット、相談対応Q&Aの作成、キャリアネットなどの情報提供および収集システムの構築など基盤が少しずつ整えられており、今後は医療機関側の体制整備が必要である。

#### F. 健康危険情報

該当せず

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1. Watanabe T, Sato A, Kobayashi N, Watanabe N, Sueoka-Aragane N, Kimura S, Sueoka E, Torin2 Potentiates Anticancer Effects on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma by Inhibiting Mammalian Target of Rapamycin. *Anticancer Res.* 2016 Jan;36(1):95-102.
2. Katsuya H, Ishitsuka K, Sueoka E (9番目) et al, Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. *Blood.* 2015 Dec 10;126(24):2570-7.

## 2.学会発表

1. 末岡榮三朗 HTLV-1感染の現状. 第64回日本医学検査学会 2015,5,16-17
2. 末岡榮三朗 フローサイトメトリー法による HTLV-1 関連疾患のモニタリングの試み 第62回日本臨床検査医学会学術集会 2015,11,19-22
3. 末岡榮三朗、渡邊達郎、荒金尚子、木村晋也 ATP競合性mTOR阻害剤Torin2はG1細胞周期停止を介して成人T細胞白血病細胞株の生育を抑制する 第74回日本癌学会学術総会 2015,10,8-10
4. 末岡榮三朗、渡邊達郎、進藤岳郎、内丸 薫、木村晋也 Association of CADM1/TSLC-1 positive fraction with clinical parameters in HTLV-1 infected patients 第78回日本血液学会学術集会 2015,10,16-184
5. 田野崎隆二、崔日承、下坂元継、宇都宮 與、徳永正人、中野信行、福田隆浩、中前裕久、竹本茂樹、楠本 茂、友寄武昭、末岡榮三朗、白土基明、末廣陽子、山中武春、岡村純、鶴池直邦. 成人T細胞白血病リンパ腫に対するフルダラビンとブスルファンを用いた減量前処置法による血縁者間末梢血幹細胞移植：多施設第 相臨床試験の結果 第37回日本造血細胞移植学会総会 2015,3,5-7
6. 渡邊達郎、荒金尚子、進藤岳郎、木村晋也、末岡榮三朗. ATP競合性mTOR阻害剤Torin2によるATL細胞株におけるAktのリン酸化抑制と生育阻害.第2回日本HTLV-1学会学術集会 2015.8. 22-23

## H.知的財産権の出願・登録状況

該当なし